

科名 血液内科 血156

対象疾患名 小児および若年成人におけるT細胞性急性リンパ性白血病

プロトコール名 JALSG T-ALL 211-U SR再寛解導入(IIA+L)

Rp	形態	ルート	薬剤名	単位		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	点滴	側管	グラニセトロン注	1mg	30分かけて								↓						
2	点滴	側管	オンコビン注	1.5mg/m ²	30分かけて								↓						
			生理食塩液	100mL	壊死性抗癌剤														
3	点滴	側管	ドキシソルピシン注	30mg/m ²	1時間かけて								↓						
			生理食塩液	100mL	壊死性抗癌剤														
4	筋注		ロイナーゼ注	10000単位/m ²									↓			↓			
			5%ブドウ糖液	2mL															
5	点滴	側管	デキササート注	2.75mg/m ² /回	30分かけて	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓
			生理食塩液	100mL	1日3回 内服でも可														
	髄注				CNS2のみに投与	(↓)													

Rp	形態	ルート	薬剤名	単位		15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1	点滴	側管	グラニセトロン注	1mg	30分かけて	↓							↓							↓	
2	点滴	側管	オンコビン注	1.5mg/m ²	30分かけて	↓							↓							↓	
			生理食塩液	100mL	壊死性抗癌剤																
3	点滴	側管	ドキシソルピシン注	30mg/m ²	1時間かけて	↓							↓							↓	
			生理食塩液	100mL	壊死性抗癌剤																
4	筋注		ロイナーゼ注	10000単位/m ²		↓			↓												
			5%ブドウ糖液	2mL																	
5	点滴	側管	デキササート注	2.75mg/m ² /回	30分かけて	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	
			生理食塩液	100mL	1日3回 内服でも可																
6	点滴	側管	デキササート注	1.38mg/m ² /回	30分かけて								↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	
			生理食塩液	100mL	1日3回 内服でも可																
7	点滴	側管	デキササート注	0.69mg/m ² /回	30分かけて											↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	
			生理食塩液	100mL	1日3回 内服でも可																
8	点滴	側管	デキササート注	0.34mg/m ² /回	30分かけて														↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓
			生理食塩液	100mL	1日3回 内服でも可																
	髄注				CNS2のみに投与	(↓)															

～MEMO～

- ・催吐レベル3(30%以上90%未満)
- ・オンコビンとイトリゾールの併用禁忌
- ・オンコビン最大投与量2mg

・デキササート:内服でも可。その際の1日投与量は下記とし、投与方法変更時も1日3回に分割投与する。なお、注射剤での1日投与量は、内服量に変換係数 0.825を乗して換算する。

10歳未満:10mg/m²/日 1日3回内服、 day1-21

10歳以上:10mg/m²/日 1日3回内服、 day1-7, day15-21(day8-14は休業)

→day22-37:3日毎に減量し9日間で漸減中止とする(5mg/m²/day →2.5mg/m²/day →1.25mg/m²/day)

・day8、15においてオンコビンとロイナーゼを同日に投与する場合、毒性軽減の為にオンコビンを先に投与すること。

・CNS2の場合にのみ、day1、18に髄注を行う。

《髄注量》

年齢 3歳以上に対し、「メトレキセート 12mg、キロサイド 30mg、プレドニゾン 10mg」を1本の注射器にまとめて髄注する。

メトレキセートは、注射用蒸留水で溶解し、2.5mg/mLにする。プレドニゾンは、注射用水に溶解し、10mg/mLにする。キロサイドは、必要量をシリンジにとる。